



「藤田嗣治 × 国吉康雄：二人のパラレル・キャリアー — 百年目の再会」  
関連イベント

## 「小沢剛 帰って来たペインターF」から10年@神戸

この夏、当館は瀬戸内国際芸術祭2025にあわせた「瀬戸芸美術館連携」プロジェクトに参加しています。岡山県2館、香川県4館、そして兵庫県から当館と横尾忠則現代美術館の計8館です。当館での藤田嗣治 × 国吉康雄展の会期末に、おりしも香川県立ミュージアムでオープンする「小沢剛の讃岐七不思議」展（8月9日～10月13日）の小沢剛さんに来館いただき、藤田国吉展や七不思議展についてお話をうかがいます。小沢さんは2015年に「小沢剛展 帰って来たペインターF」（資生堂ギャラリー、東京）を開催。「F」はもちろん、Foujita 藤田であり、2018年には東京都美術館での藤田没後50年展にあわせて、隣接する東京藝術大学陳列館で「1940's フジタ・トリビュート展」を企画・出品するなど、藤田通？です。トリビュート展の共同企画者で、藤田国吉展の監修者でもある当館館長・林とともに。

2025 **8.11** 月 祝 14:00～15:30 開場 13:30

兵庫県立美術館

KOBELCO ミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073 （最寄駅：阪神岩屋駅/JR灘駅/阪急王子公園駅）

定員150名/先着順/要本展観覧券

講師 アーティスト

**小沢 剛 氏** おざわ つよし

1965年東京生まれ。ユーモアを交えながら歴史や社会を鋭く批評する絵画、写真、映像、インスタレーションといった多様な手法の作品で知られる。代表作に「地藏建立」「なすび画廊」「醤油画資料館」「ベジタブル・ウェポン」「帰って来た〜」シリーズなどがある。P.S.1コンテンポラリーアートセンター、ヘイワードギャラリー、森美術館など、国内外の国際展にも多数参加。ベネッセアートサイト直島には「スラグブツダ88」が恒久展示。アーティスト集団「西京人」としても活動し、金沢21世紀美術館やグッゲンハイム美術館などの展示に参加。M+ 香港、国立国際美術館、東京都現代美術館など、世界各地の美術館に作品が所蔵されている。



聞き手 当館館長、本展監修者

**林 洋子** はやし ようこ

美術史研究者、キュレーター。パリ第一大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、2023年4月より現職。